

ただいま大名鳥居を

解体部分

修復しています。

日出町有形文化財

若宮八幡神社境内
日出藩主寄進石鳥居

—初代藩主木下延俊寄進石鳥居—

保存修復工事説明会

日 時

令和7年9月20日(土)

9:30 ~ 10:30

⚠ 少雨決行 ※荒天時は9月27日(土)に延期

会 場

若宮八幡神社

大分県速見郡日出町 2831 番地

⚠ 当日は工事に伴い、会場付近の道路交通規制を行います。

P 蓮華寺東隣の駐車場をご利用ください。
(若宮八幡神社駐車場は利用不可)

内 容

👉 事業概要、調査報告 日出町教育委員会
(社会教育課文化財係)

👉 修復概要 株式会社文化財保存活用研究所

★申込不要、参加無料★



寛永11(1634)年、日出藩初代藩主木下延俊が愛宕社に寄進した石鳥居。
明神系台輪鳥居。柱の刻銘には、豊臣一族「豊富(豊臣)」姓の藩主名が刻まれる。

主 催 日出町教育委員会

問合先 日出町教育委員会社会教育課(文化財係)

協 力 若宮八幡神社

☎ 0977-73-3222

次 第

1 開 会 (9:30)

2 説 明

- (1) 事業の概要 日出町教育委員会社会教育課文化財係
- (2) 調査の概要 //
- (3) 修復の概要 株式会社文化財保存活用研究所

3 公 開

- (1) 修復現場見学（但し所定の場所からの見学）

4 閉 会 (10:30)

事業の概要

事 業 名 日出町有形文化財

「若宮八幡神社境内日出藩主寄進石鳥居」保存修復事業

対象文化財 愛宕社（現若宮八幡神社末社）石鳥居 1基

寛永 11（1634）年、日出藩初代藩主木下延俊寄進

注) 平成 28（2016）年 2月 2日指定（「若宮八幡神社境内日出藩主寄進石鳥居 4 基」）

所 有 者 若宮八幡神社（事業主体者）

施 工 者 株式会社文化財保存活用研究所

事 業 期 間 令和 7 年 4 月～令和 7 年 10 月

事 業 内 容 石鳥居上部の部分解体修理（昭和 16 年き損）

[解体] 笠木島木・台輪（東柱）・東柱上部（折損部）・額束の解体

[修復] 折損した笠置島木東側端部の接合

折損した東柱上部の接合

その他

[組立] 解体部材の据え直し（整形を含む）

事 業 指 導 日出町教育委員会社会教育課（文化財係）

事 業 支 援 日出町（町指定文化財保存修理事業補助）

公益財団法人朝日新聞文化財団（文化財保護活動助成）

木下家と日出藩

1 木下家一族の系譜

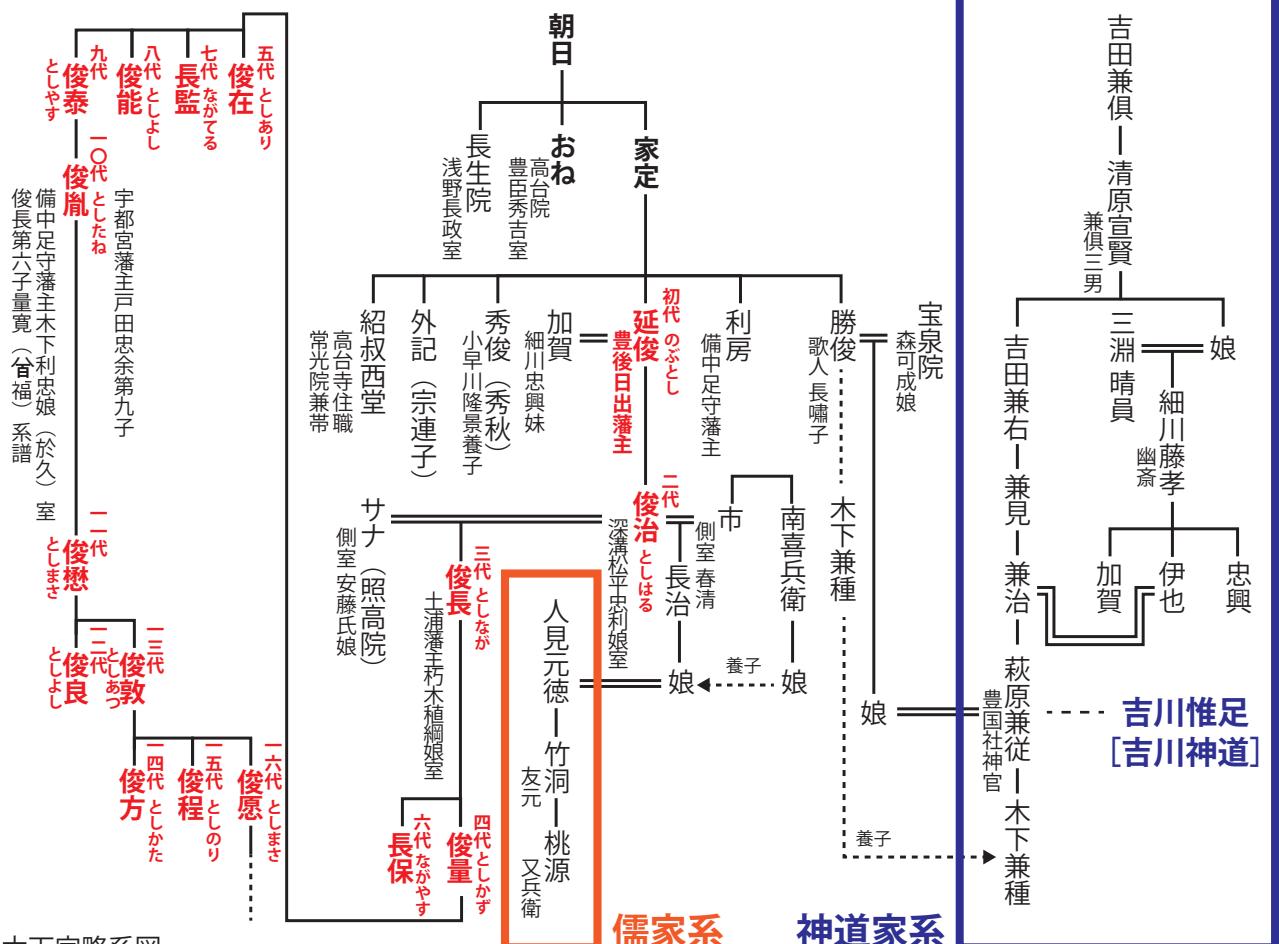


図1 木下家略系図



図2 日出藩木下家に係る主要文化財

3 木下家一族の系譜

天正 5 (1577) 年 木下家定の第 3 子として尾張国に生まれる。

天正 16 (1588) 年 豊臣秀吉より摂津国駒ヶ林 500 石を与えられる。

文禄 元 (1592) 年 従五位下右衛門大夫に叙任される。文禄・慶長の役に参陣。

文禄 4 (1596) 年 8 月、三木・播磨郡内 2 万 5 千石を与えられる。

同月、家定は播州姫路城主 2 万 5 千石を与えられ、しばしば大坂城留守居を務め、延俊は姫路路城の城代を務めた。

慶長 5 (1600) 年 関ヶ原の戦

- 延俊は当時、姫路に在城。
- 義兄細川忠興の進言により、徳川方に加勢する。
- 関ヶ原へ出陣せず、姫路城にて西国の兵に備える。
- 石田方の小野木縫殿助（重勝）が籠城する丹波福知山城を、忠興ともに攻め落とす。
- 戦後、家定は備中国賀陽郡上房内 2 万 5 千石を拝領する（備中足守藩）。
- 延俊の動向は不詳。

慶長 6 (1601) 年 春、豊後国速見郡内 3 万石を拝領する。

- 忠興による論功行賞の上聞があった。
- 忠興の領地（速見郡）の一部を割譲。

4 月、延俊家臣（中村甚左衛門、山田善右衛門）が細川家家臣松井康之より領地を受け取り、藤原村に仮の御屋敷を設ける。

8 月、日出に入封、藤原村仮屋敷に居住、日出城の築城に着手する。

- 繩張は細川忠興、石垣普請の棟梁はその家臣穴生生理右衛門

慶長 7 (1602) 年 8 月、概ね築城された日出城に入城を果たす。

慶長 19 (1614) 年 大坂冬の陣、徳川方に参陣。

慶長 20 (1615) 年 大坂夏の陣、徳川方に参陣。

寛永 19 (1642) 年 1 月 7 日、延俊逝去（泉岳寺に葬る）。

寛永 19 (1601) 年 5 月、2 代俊治（延俊第 7 子）が家督を継ぐ。

- 延由（延俊第 8 子）に領内立石 5 千石を分知する（延俊の遺言）。※交代寄合

寛文 4 (1664) 年 5 月、3 代俊長の治世に 2 万 5 千石の所領が安堵される。

一日出藩木下家は 16 代 270 年におよび、転封や改易を受けることなく日出を統治一



図3 日出藩木下家の家紋



図4 日出藩領

日出藩の総鎮守「若宮八幡神社」

- 若宮八幡神社は日出藩木下家の居城「日出城」の東端、南に別府湾日出港を臨む台地上に位置する日出藩の総鎮守の神社です（写真1、図5）。
- 日出藩主初代木下延俊による再興以降、若宮八幡神社を篤く崇敬した日出藩主歴代は、社殿の整備をはじめ、鳥居や燈籠、社領などを寄進しました（『図跡考』）。
- 参勤交代において日出藩主は、日出城本丸大手より出発して必ず若宮八幡神社へ参詣し、眼下の日出港より御座船に乗り、瀬戸内海に向けて出航しました（『木下俊懋日記』）。
- 平成28（2016）年2月2日、「若宮八幡神社境内日出藩主寄進石鳥居4基」「若宮八幡神社境内日出藩主寄進石燈籠8基」を日出町有形文化財に指定されました（図5、表1、写真2）。

「愛宕社」祭神 軒遇突智命 豊臣秀吉 加藤清正（慶応年間） 綿津見命 事代主命 蛭兒命（大正12年）

- 天正年間以前の創始で、初代藩主木下延俊が再興して社殿を建立（元和年間）。
- 慶応年間、16代藩主木下俊憲が豊臣秀吉・加藤清正の二神を祀りました。

番号	寄進藩主	寄進年	総高	特記事項
①	初代 木下延俊	寛永2（1625）年	約4.8m	明神系台輪鳥居 / 藩主銘「豊富」姓
②	初代 木下延俊	寛永11（1634）年	約4.2m	明神系台輪鳥居 / 藩主銘「豊富」姓、愛宕社
③	4代 木下俊量	享保4（1719）年	約4.9m	明神系台輪鳥居 / 藩主銘「豊臣」姓
④	11代 木下俊憲	寛政6（1794）年	約6.9m	明神系台輪鳥居 / 藩主銘「豊臣」姓、大塚順右衛門石工棟梁、鳥居石

表1 日出藩主寄進石鳥居一覧



写真1 郷社若宮八幡社風致絵図(若宮八幡神社蔵)

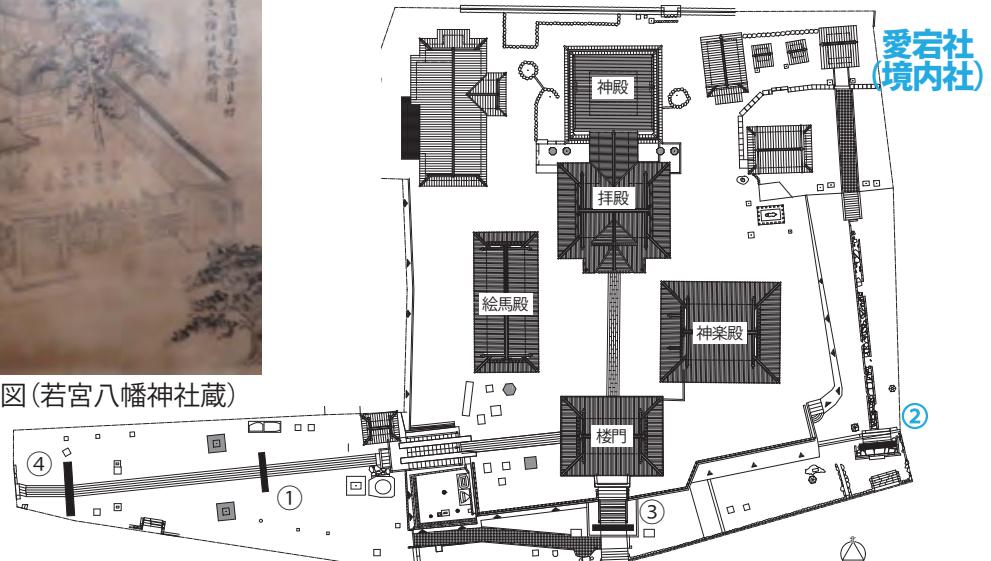


図5 若宮八幡社境内配置図
(S=1/400)
注) 平成28年の境内



①初代延俊寄進石鳥居

②初代延俊寄進石鳥居(愛宕社)

③4代俊量寄進石鳥居

④11代俊憲寄進石鳥居

写真2 若宮八幡神社境内日出藩主寄進石鳥居

日出藩主の石鳥居の寄進

- 歴代の日出藩主は、日出領内各村の神社を中心
に数多くの石鳥居を寄進しました。
 - 日出藩主が寄進した鳥居の寄進数は、大分（豊
後及び豊前の一
部）の中・近世大名鳥居寄進
総数のおよそ4割（40基/93基）、この内、3
代俊長による寄進、八幡神社及び天満社への
寄進が半数以上を占めます（図6、表2）。
 - ★若宮八幡神社に寄進された石鳥居は日出藩の
総鎮守にふさわしく、領内他社をしのぐ寄進
数（通例として神社1社に対し石鳥居1基の
寄進）と規模（鳥居の高さ）を誇ります。
 - 日出藩主の鳥居寄進の背景には、領地・領民
の円滑な統治を図る日出藩の宗教的政治施策
がうかがえ、木下家の神道思想の顕れともみ
ることができます（一族の婚姻・姻戚、交友
関係にみる神道家・儒学者との交わり）。



図6 日出藩主寄進石鳥居の分布

注) 平成 28 年度 日出町教育委員会調査

藩主	寄進数	寄進期間
初代 木下延俊	4	慶長 15 (1610) 年～寛永 16 (1639) 年
3代 木下俊長	26	延宝 2 (1674) 年～宝永 4 (1707) 年
4代 木下俊量	6	宝永 5 (1708) 年～宝永 16 (1725) 年
11代 木下俊懋	2	安永 8 (1779) 年～寛政 6 (1794) 年
15代 木下俊程	2	安政 2 (1855) 年～安政 4 (1857) 年

表2 日出藩主石鳥居寄進数・寄進期間一覧

注) 高原三郎「太名島居についての一考察ー太分県下各藩の特徴ー」『太分縣地方史』1976)

日出藩主銘に刻まれる「豊臣」姓

- 日出藩主が寄進した石鳥居の藩主銘には、「豊臣」姓（初代延俊については「豊富」姓）が刻まれています（図7）。
 - 史料にみる「豊臣」姓は、天正14（1586）年から慶長19（1614）年にはほぼ限られ、全国相当数の大名衆などに広く下賜されました。
 - 徳川方と豊臣方が雌雄を決した「大坂の陣（1614～1615）」における豊臣宗家の滅亡以降、「豊臣」姓の下賜及び使用は終焉を迎えます。
 - 日出藩木下家は「大坂の陣」以降、幕末に至るまで「豊臣」姓を名乗り続け、寄進した鳥居や燈籠、社寺の棟札、書画などの多くに「豊臣（豊富）」姓をみることができます（図2）。
 - この「豊臣」姓をめぐる事象は日出藩木下家の事象に留まらず、「豊臣秀吉とその政治支配体制」、「大坂の陣」とその後の「徳川政権による支配体制」など、日本史上の歴史事象に深く関連するものとして捉えられます。



図7 若宮八幡神社日出藩主寄進石鳥居にみる「豊臣(豊富)」姓の刻銘

鳥居石材を採取した鳥居石石丁場

■寛政 8 (1796) 年、二宮兼善 (日出藩郡奉行等を歴任) が著した日出藩の地誌『図跡考』「卷之二 川崎村」中の「宗行村」の項に、次の記述がみえます (写真 3)。

宗行村

一 海邊二大石あり 土俗鳥居石と唱ふ 延俊公・俊長公・俊量公・俊懋公八幡宮江御寄進の鳥居 何も此石尔天出来す 寛政六年
俊懋公大鳥居御寄進之時之石工曰 此石今半也 割口尺九尺
余り土中二埋連有 今半分といふ 御領分第一之珍石也

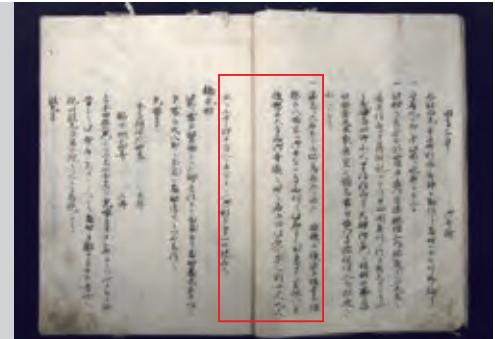


写真 3 『図跡考』「宗行村」

その内容は…

「宗行村の海辺に大石があり、領民は鳥居石と呼んでいる。初代藩主延俊公、3代藩主俊長公、4代藩主俊量公、11代藩主俊懋公が八幡宮へ寄進した鳥居は、いずれもこの大石から割り採って製作されたものである。寛政 6 (1794) 年、俊懋公が（若宮八幡神社へ）大鳥居を寄進した際の石工の話では、いま（当時）、この石は半分になっている。割口は九尺（約 3m）が未だ土の中に埋もれたままである。日出領内でも第一の珍しい石である。」

■『図跡考』「卷之六 日出村南仁王部」中の「若宮八幡神社」の項には、次の記述がみえます。

一 西第一鳥居 俊懋公御寄進
銘文
俊懋否徳 翌祖考後 后時日出 為民父
母 以作萃表 嚴爾神明 憂恤余心 眷顧
茲民
寛政六年甲寅九日
朝散大夫守主計頭日出侯豊臣俊懋
謹白
臣 長澤正順奉命立之
右銘文 翌多仲誌之筆者 関源藏也 此兩人ハ 当時東武
の名家也
一 鳥居寸法
高 二丈八尺三寸五分
笠木厚 二尺五寸
同 長 二丈九尺二寸
柱廻 一丈三寸六分
柱徑 三尺三寸
石工棟梁
大塚順右衛門
右ハ川崎宗行下の大石尔天 剪之 其残石未過分有之
見事の大石也

これらの記述より…

「八幡宮（若宮八幡神社）」

初代藩主木下延俊寄進石鳥居
3代藩主木下俊長寄進石鳥居
4代藩主木下俊量寄進石鳥居
11代藩主木下俊懋寄進石鳥居



鳥居石より石材を採取

鳥居石石丁場跡

- 『図跡考』に記される「鳥居石」は、若宮八幡神社の北東近辺（日出港の北岸）の段丘上に現存します（大字川崎字宗行）。（若宮八幡神社の北東に現存します（平成 28 年秋確認）。
- 現況での最大幅 12.4m、最大高 2.4m におよぶ巨岩で、上端一面におよそ 100 個 におよぶ矢穴痕が列をなして穿たれています（写真 4、図 8・9、表 3）。
- 鳥居石は「安山岩（デイサイト）」（火山岩の一種）で、岩体（基地）に「捕獲石」（流動する溶岩が巻き込んだ異種の岩石）が含まれています（写真 4）。

若宮八幡神社の日出藩主寄進石鳥居は、その石材基地が鳥居石に酷似…

→ 鳥居石及びその周辺で石材を採取・加工して製作



写真 4 「鳥居石」

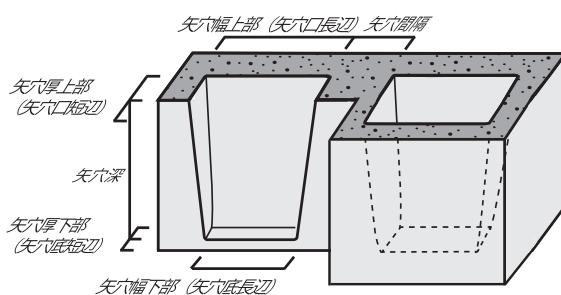
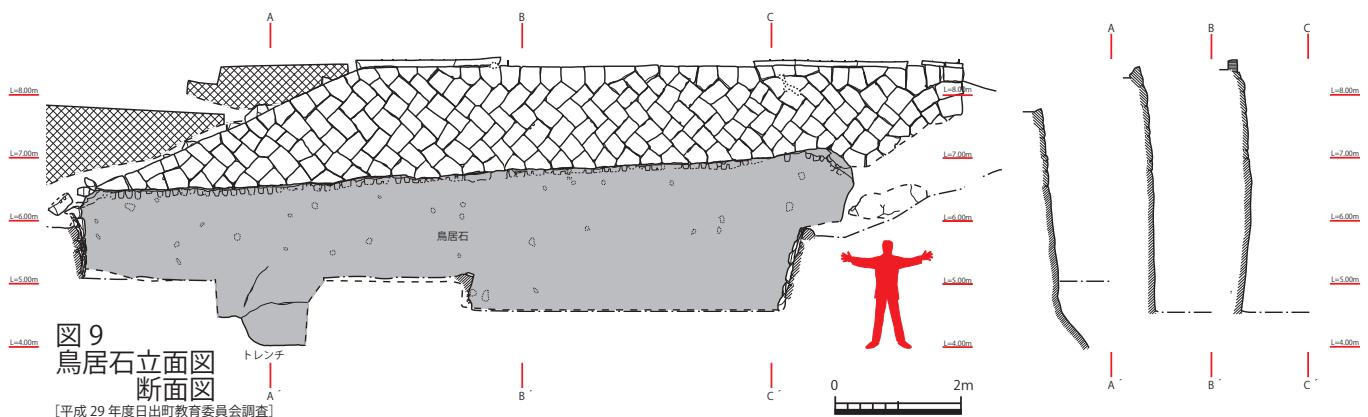


図 8 矢穴模式図

計測箇所	計測値	
	矢穴列 1	矢穴列 2
矢穴幅上部（矢穴口長辺）	9.5 ~ 10.0 mm	9.5 ~ 10.0 mm
矢穴厚上部（矢穴口短辺）	— mm	(2.5) ~ 4.0 mm
矢穴幅下部（矢穴底長辺）	6.0 ~ 6.5 mm	7.0 mm
矢穴厚下部（矢穴底短辺）	— mm	0.5 ~ 1.0 mm
矢穴間隔	4.0 ~ 4.5 mm	8.0 mm

表 3 矢穴痕略計測一覧



■「鳥居石」の埋蔵文化財試掘調査を実施したところ、石丁場として営まれていた様子が浮かび上がってきました。

- ①鳥居石は、現状より更に約1m深く垂直に埋まる。
- ②トレンチ（試掘溝）北端（鳥居石割面）より南約4mにかけて多量のコッパ（石材の採取や加工時に生じた石の破片）の堆積層が確認され（写真5・6、図9・10）、少なくとも3層のコッパ堆積層（図10：12・14・17層ほか）とその直上のコッパを埋める整地層を確認（図10：11・13・15層ほか）。
- ③トレンチの南域は安定した層位で（コッパ堆積層関係層位／図10：10・19・21層ほか）、鳥居石の前面は古くより平坦地であったとみられる。



写真5 「鳥居石」試掘調査状況



写真6 「鳥居石」トレンチ北端土層(コッパ堆積状況)

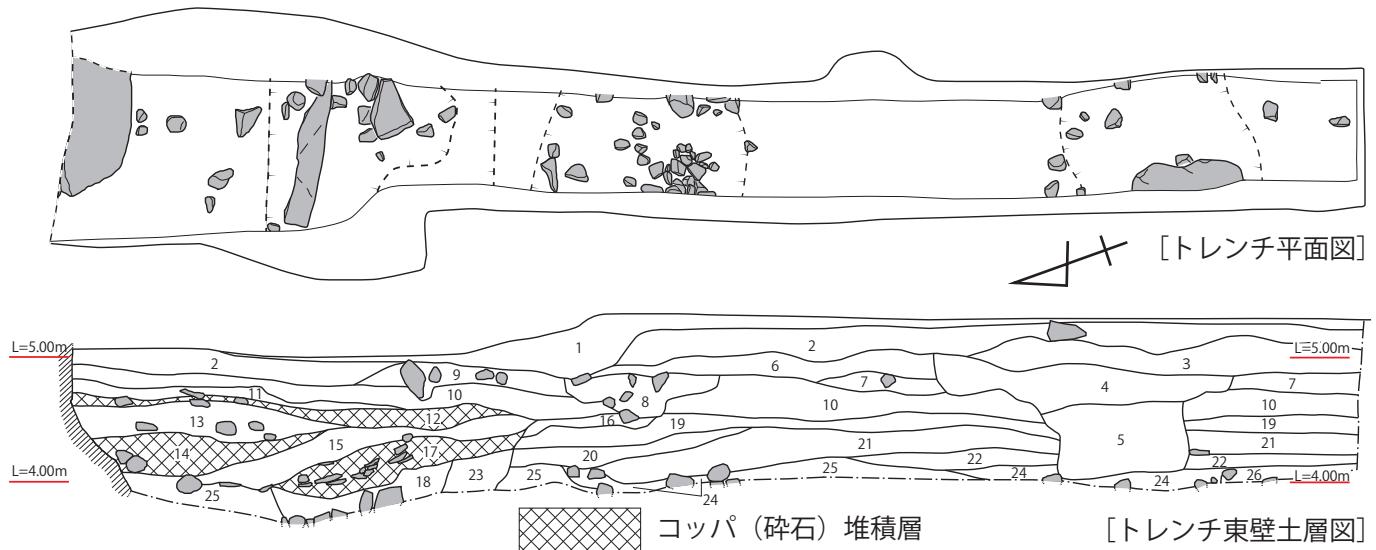


図10 鳥居石石丁場跡試掘調査（トレンチ） [平成29年度 日出町教育委員会調査]

↳ 鳥居石は江戸時代を中心に鳥居石材の採取が繰り返され、石材の採取に加えて加工も行われた石丁場であったとみられます。

↳ 12mにおよび連続して穿たれた矢穴列は、長大な石材を一度に採取したことを示し、日出藩の石工衆が極めて高い技術を保持していたことがうかがえます（国内最大級の割石）。

↳ 鳥居石は、日出藩主歴代の石鳥居寄進にのみ採取が許された特別な石丁場（石造物のための石丁場）であったとみられます。

↳ 鳥居石石丁場は、史料に裏付けられた石造物の生産遺跡であるとともに、生産された製品までも追跡可能な希少な事例といえます（希少な石造物石丁場）。

↳ 鳥居石石丁場で採取・加工された石鳥居部材は、修羅（ソリ状の運搬具）などで搬出されたと考えられ、若宮八幡神社西隣の小道はそのための「石曳き道」であった可能性があります。

愛宕社寄進石鳥居の修復

1 石鳥居のき損

昭和 16 (1941) 年 3 月 27 日午前 8 時頃、突風により若宮八幡神社境内の松の巨樹が折れ、同社（末社「愛宕社」）東隣の蓮華寺（旧日出藩祈祷寺）の堂宇が倒壊しました。この時、日出藩初代藩主木下延俊が愛宕社に寄進した石鳥居も被害を受けたといわれています。

2 石鳥居の現状

石鳥居が昭和 16 年にどのようなき損を受けたのか、その詳細は定かではありません。現状、笠木島木の東端が折損し（傍らに折損部材現存）、東柱（台輪一貫間）が破断しています。また、西柱の貫穴内部で貫が折損し、石鳥居上部全体に不陸が生じています。

3 石鳥居の形式・構造

[製作年代]

寛永 11 年 (1634) ※寄進年

[製作 者]

不明 ※日出藩初代藩主木下延俊寄進

[形 式]

明神系台輪鳥居

[材 種]

石造（安山岩質—デイサイト）

[構 造]

笠木島木：東西二石造（中央契継ぎ）、

端部反増、柱柄穴・額束柄穴

台 輪：一石造、角部面取り、刻銘（上面）、

中央穿孔（柱頭・柄差込）

上面中央割り込み（笠木島木据付）

額 束：一石造、柄（笠木島木・貫）、無銘

貫 ：一石造、端部バチ状整形（立面）

柱 ：一石造、柱頭柄（段状造出一台輪

受・笠木島木差込柄）、転び据付

柱刻銘（正面）

東柱：寛永十一甲戌暦卯月吉日 木下右衛門太夫豊富朝臣延俊

西柱：愛宕山大権現 豊後國速見郡日出庄



写真7 昭和 16 年突風被害状況（蓮華寺蔵）

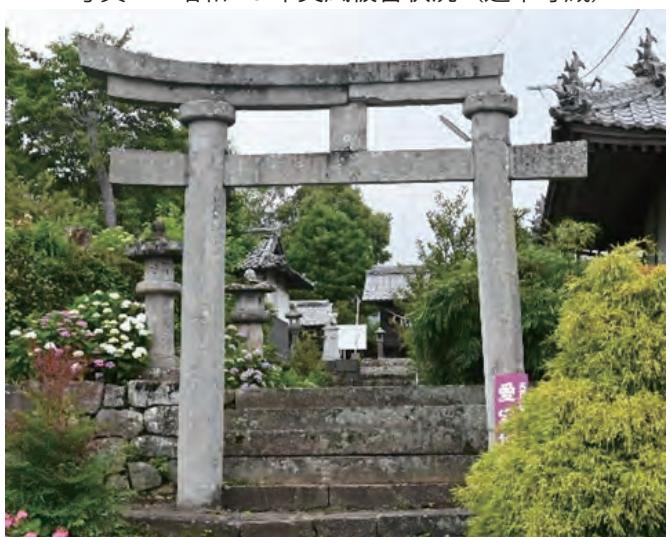


写真8 き損状況全景



写真9 き損状況詳細（折損、破断、不陸）

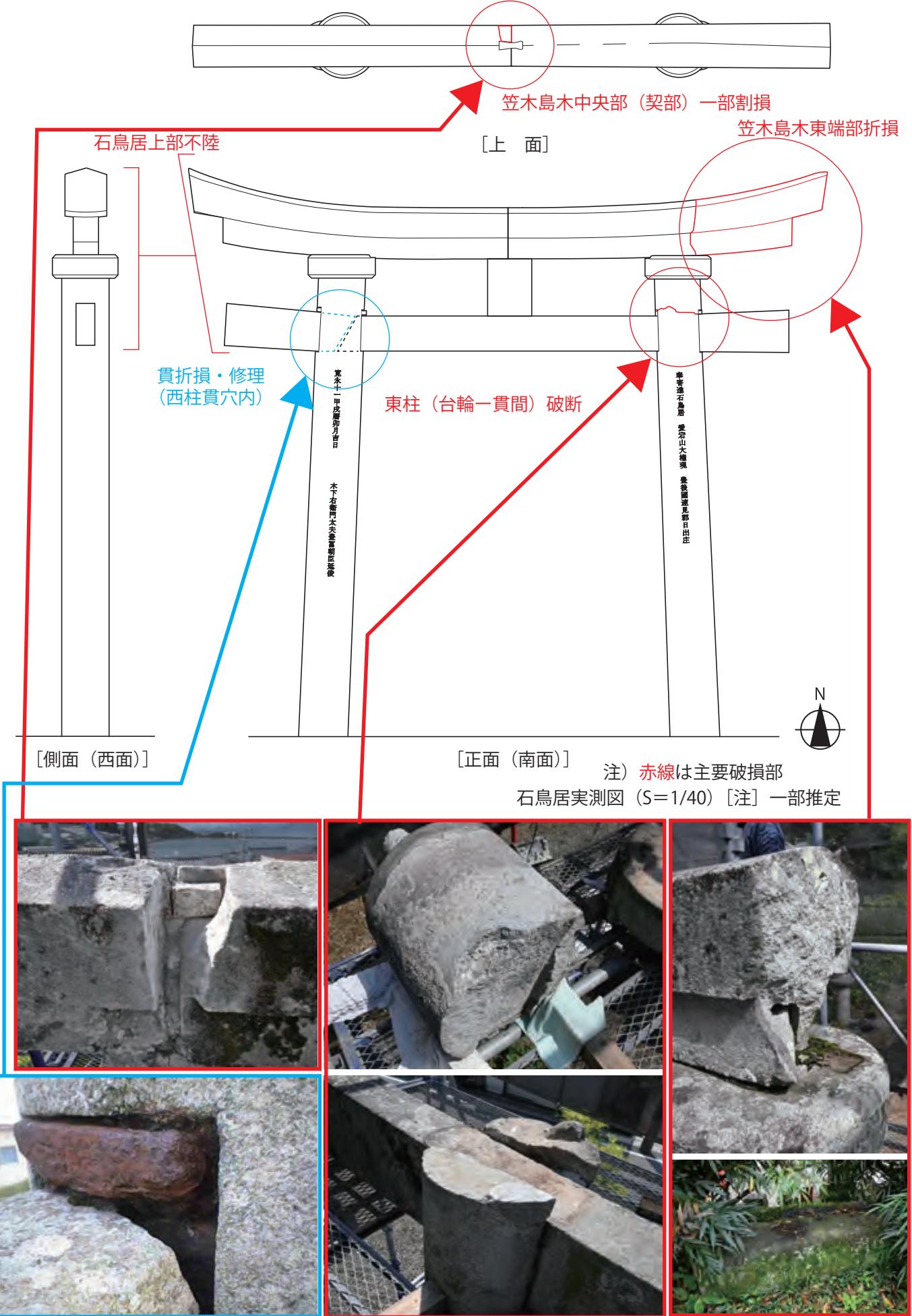


図 11 破損図

4 石鳥居の修復

【部分解体】

石鳥居上部の部分解体（笠木島木、額束、毀損柱上部及び台輪）をクレーンで吊り上げ解体をおこなった。

左右両方の笠木島木は中央で2つに分かれた構造で、鉛塊による契継ぎが施されていることを確認した（写真10-2）。前回修理時に施工されたモルタル部分を除去しながら解体を進めた結果、鉛の塊は2層になっているのが確認できた（写真10-5）。鉛塊は当初解体を優先することから切断を予定していたが、完全に切断することなく両側笠木島木を解体することができた。島木笠木は工房での修復の為に、また額束は工房保管の為搬出した。毀損柱及び台輪についても前回の修理で使用したモルタルを除去しながら解体をおこない、現地での作業の為現地保管した。

接合検討の為、鳥居付近にあった島木笠木の一部とみられる石造物も搬出した。工房へ搬入後、接合検討をおこない、現地の石造物がこの石鳥居の島木笠木の一部であることを確認した（写真10-19）。



写真10-1 解体前



写真10-2 契継ぎ



写真10-3 モルタル修理痕



写真10-4 モルタル除去



写真10-5 鉛塊による契継ぎ

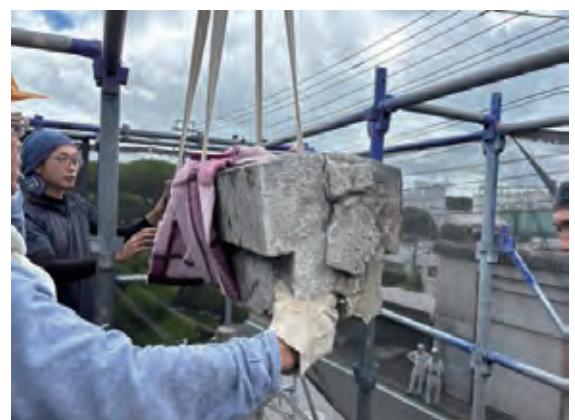


写真10-6 島木笠木取り合い部



写真 10-7 島木笠木取り合い部



写真 10-8 額束のホゾと島木笠木のほぞ穴



写真 10-9 毀損柱の修理痕



写真 10-10 柱の割損及びズレ



写真 10-11 モルタル除去



写真 10-12 解体



写真 10-13 モルタル除去

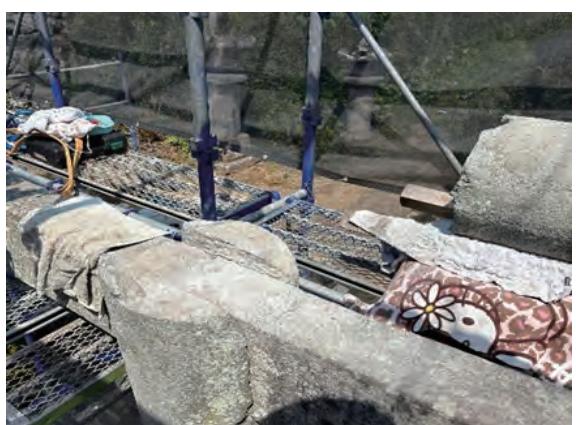


写真 10-14 柱上部解体後



写真 10-15 鳥居付近の石造物



写真 10-16 搬出



写真 10-17 工房搬入



写真 10-18 接合検討



写真 10-19 接合検討

【クリーニング】

持ち帰り部材のクリーニングをおこなった。脱落していた笠木島木は堆積土が多く付着し、両側笠木島木は蘚苔類のコケが多く繁茂していた。ブラシやヘラで石材に負担のかからないようにクリーニングをおこなった。



写真 10-20 クリーニング前



写真 10-21 クリーニング後



写真 10-22 クリーニング前



写真 10-23 クリーニング後



写真 10-24 クリーニング状況



写真 10-25 クリーニング状況

【接合・固定】

笠木島木の接合をおこなった。破断面にステンレスピンφ13mmのステンレスピンを2本通すため2箇所ずつ穿孔し、ピンを挿入後エポキシ樹脂で破断面同士を接合した。エポキシ樹脂の硬化を確認後、接合部は擬石材を用いて表面整形をおこなった。

前回修理をおこなったとみられるもう一つの笠木島木の割損部についても、新材をφ3mmピン接合2本で取り付けて復元し、擬石材で表面整形をおこなった。



写真 10-26 接合前



写真 10-27 接合後



写真 10-28 穿孔作業状況



写真 10-29 接合作業状況



写真 10-30 接合作業状況



写真 10-31 接合作業状況



写真 10-32 新材取り付け前



写真 10-33 新材取り付け後



写真 10-34 接合



写真 10-35 固定養生

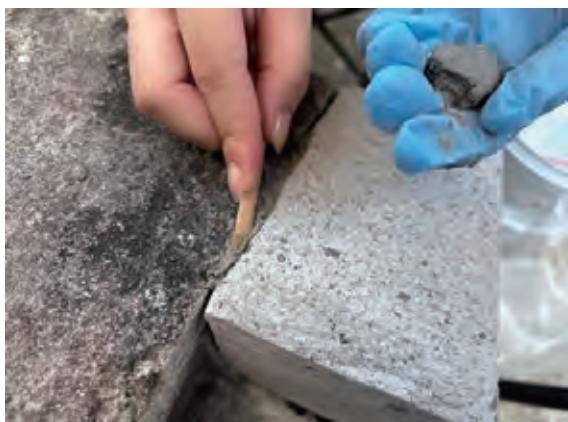


写真 10-36 仕上げ作業状況



写真 10-37 仕上げ作業状況



写真 10-38 接合前



写真 10-39 接合後



写真 10-40 穿孔



写真 10-41 接合状況



写真 10-42 接合状況

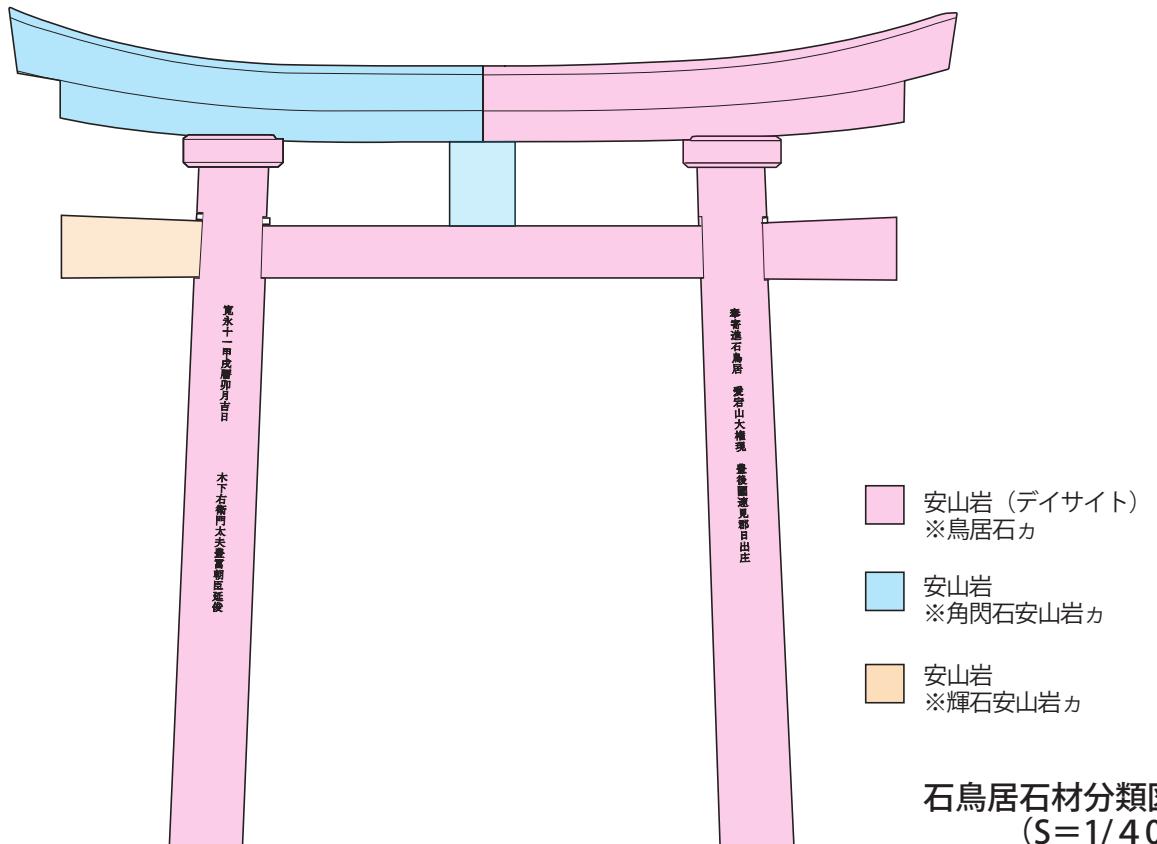


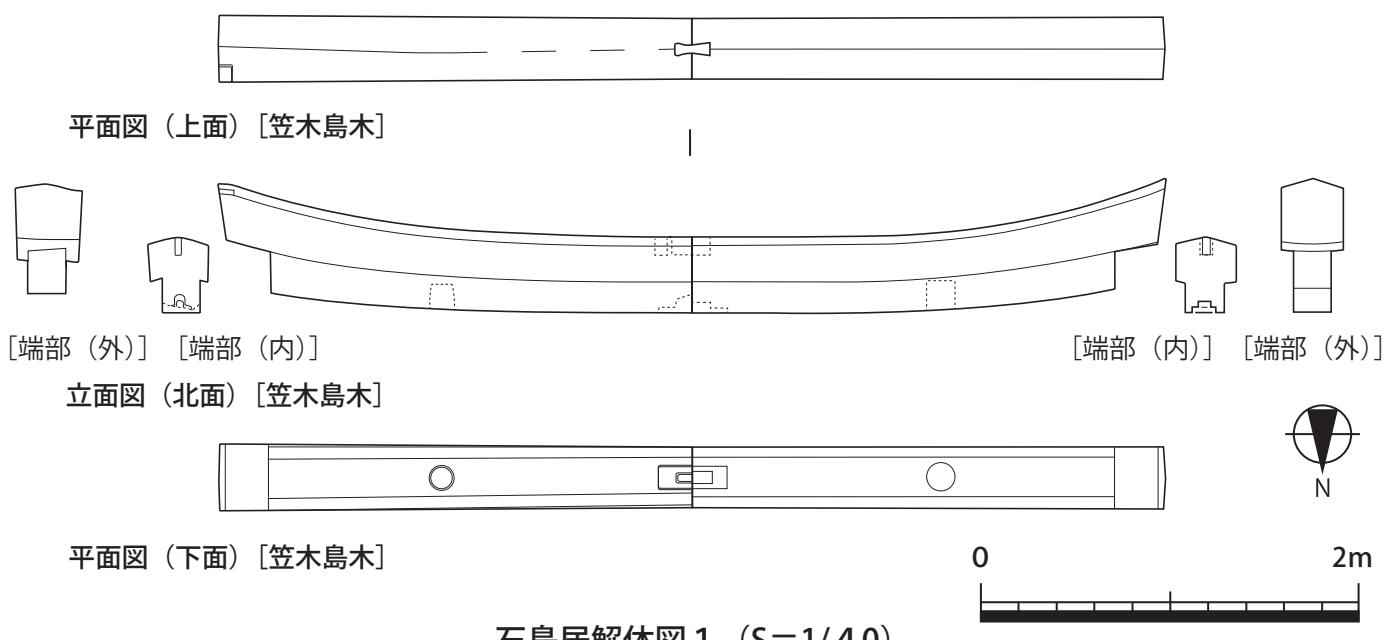
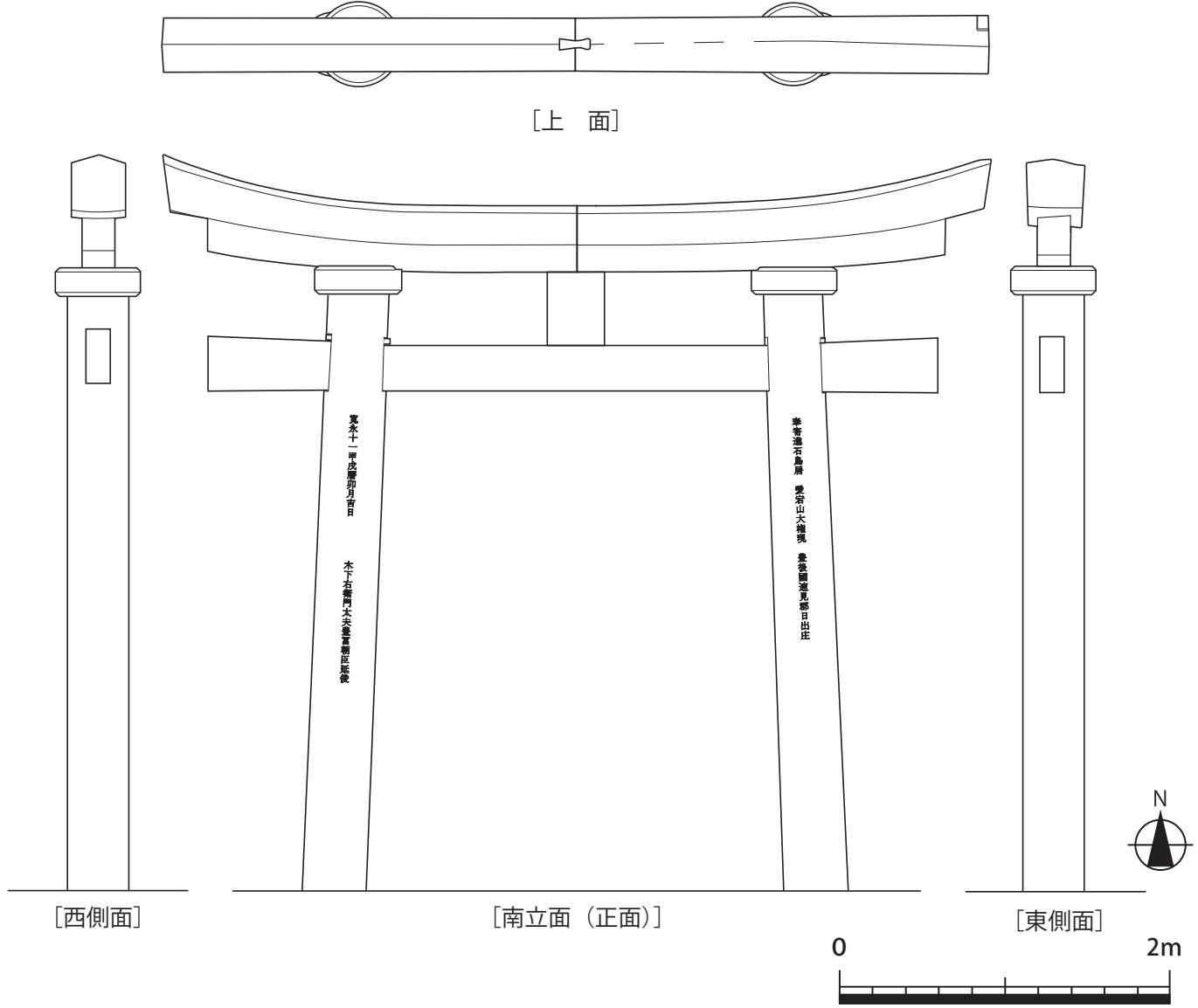
写真 10-43 接合完了

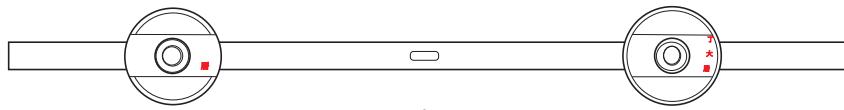
株式会社文化財保存活用研究所 作成

石鳥居調査図

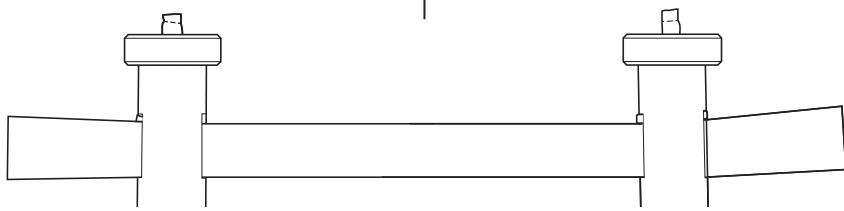
[注] 令和 7 年 9 月 5 日調査時点



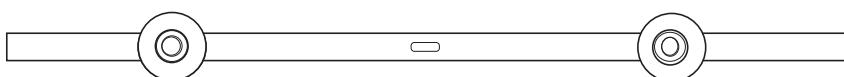




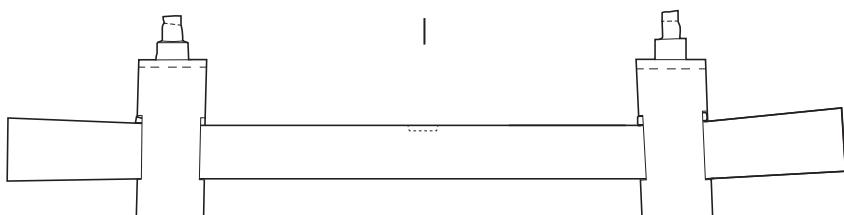
平面図 [笠木島木解体]



立面図（北面）[笠木島木解体]



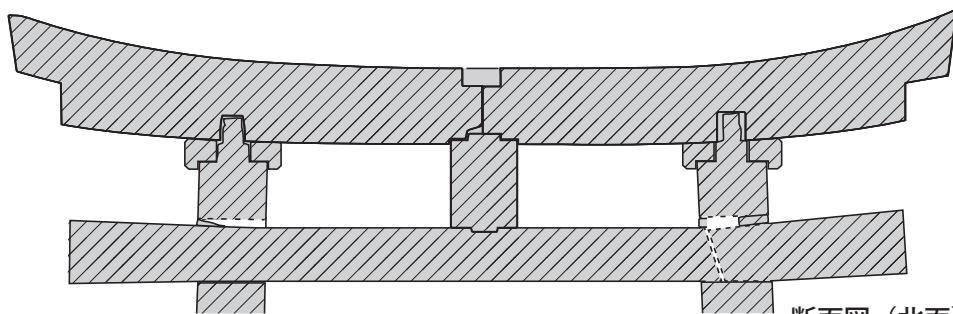
平面図 [台輪解体]



立面図（北面）[台輪解体]



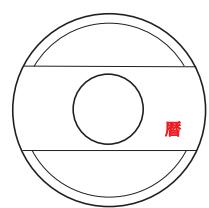
平面図 [貫部]



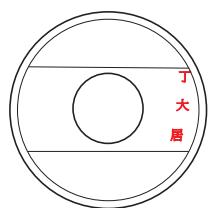
断面図（北面）[笠木島木一貫部]



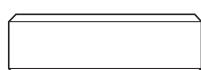
石鳥居解体図 2 ($S=1/40$)



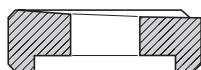
[東台輪上面]



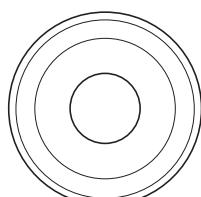
[西台輪上面]



[東台輪側面]



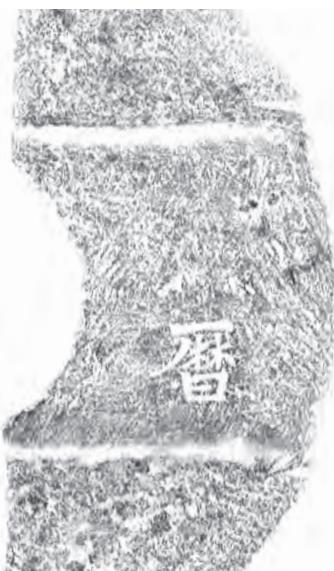
[東台輪断面]



[東台輪下面]



台輪 ($S=1/20$)



[東柱台輪刻銘]



[西柱台輪刻銘]



台輪拓本 ($S=1/5$)



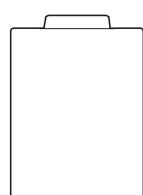
[平 面]



[側 面]



東柱外貫側クサビ
($S=1/10$)



[南立面]



[東立面]



額束 ($S=1/40$)

石鳥居解体図 3 ($S=1/40$)



石鳥居解体写真

日出町有形文化財若宮八幡神社境内日出藩主寄進石鳥居
—初代藩主木下延俊寄進石鳥居（愛宕社）—
保存修復工事

調査 日出町教育委員会社会教育課（文化財係）
〒879-1506 大分県速見郡日出町 3891 番地 2
TEL0977-73-3222/FAX0977-72-8680
Email bunkazai@town.hiji.lg.jp
[担当] 中尾征司（主幹兼文化財係長）
松本 凌（文化財係技師）

調査協力 若宮八幡神社
株式会社文化財保存活用研究所

【注】資料第2版（令和7年9月30日図面修正）